

伝統のパイプづくりで 培った素材加工力が強み

海外発注可
納期相談
企画力自信有
コスト相談
メイドイン
ジャパン
試作可
小ロット
量産
対応



奈良工場敷地内の新工場棟

業務内容
多品目製造が特徴
顧客の望みを叶える精神

「林パイプ工業所」は80年以上にわたってパイプ製造を主軸にきたが、近年では「パイプに限らず、お客様の望むことは何でもやろう」というコンセプトのもと、その業務を広げている。

現在の特徴は製造品目の多さにある。銅管、ステンレスパイプ、コーティングパイプのほか、鋼製パレット、園芸支柱、さらにユニットバス部材なども製造する。コーティングパイプだけをとってみても、介護用手すりから物干し竿、家庭用金物に至るまで用途は幅広く、インテリア資材の輸入販売までも手がけている。

強み
オールラウンダーを育て
コスト・納期減に貢献

パイプの切断、コーティング、パレットのプレス、組立、溶接、塗装など、すべての工程は奈良工場（奈良県五條市）において一貫生産体制を構築。それにより中間物流コストを削減し、顧客にコストダウンを提案できることが強みだ。

林路人社長が「1つの工場に町工場が何個も集まっているようなもの」と語るように、同じ工場内でもさまざまな異なる作業を同時に進めている。従業員はオールラウンドプレーヤーとしての技術を身に付けているため、繁閑に応じて機動的に作業現場を移ることも可能だ。この多能工体制によっても、コスト削減と納期の短縮に大きく寄与している。

工場新設
奈良工場敷地内に
新工場棟が完成

平成27年、奈良工場敷地内に完成させた



コーティングパイプ製造ライン



新工場棟に導入した自動溶接機

今後の展望
課題は提案力強化と
心ひかれる会社づくり

新工場棟では大型物流倉庫としての機能も備えており、自社で製品のピッキング作業まで実施していることも同社の特色となっている。新工場棟は敷地面積約1,000㎡、設備を含めて2億円の資金を投じて建設した。林社長は「景気の上昇期にこそ、次の積極策を打つべき」と考えて決断し、新工場では主にユニットバス部材の後加工を行っている。自動溶接機などの新鋭設備も新たに導入し、コストダウンと品質の高さという顧客の要求に応えられる体制を整えている。

林社長は、「今後の課題は提案力の強化だ」と意気込む。自社生産で採算が取りにくいものは外注に切り替えていく一方で、「自分たちにしか作れないものを追求して、顧客に提案する力を付けていきたい」と考えている。

今後は、省力化・合理化への投資を進めていくとともに、まったくの新分野への参入にはM&A（合併・買収）も視野に入れる。また機械化を進めるだけでなく、次世代への技術の伝承も重要だと考え、「若い人にもものづくりへの興味を持ってもらえるような企業を目指したい」と語る。

当社の歴史



創業以来80年以上の歴史があり、私で3代目となります。当初は傘の柄の部分の製造するメーカーでしたが、傘の製造は海外にほとんど移ってしまったため、家庭金物、農業資材、さらにはパイプ以外へと業務を広げてきました。時代に必要とされるよう、今後も変化していきたいと思います。

代表取締役 **林 路人さん**

<http://www.8843.net/>

主な事業内容

パイプ、コーティングパイプ、パレット、園芸支柱の製造など

主な取引先(納入先)

住宅設備メーカー、大手商社、自動車部品メーカー、インテリア資材メーカーなど

●住所 〒537-0011
大阪市東成区
東今里2-15-14
●TEL 06-6975-2323
●FAX 06-6971-4431
●創業 昭和12年2月
●設立 昭和27年1月
●資本金 5,000万円
●従業員 45名

大阪
30